

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13221

研究課題名（和文）アメリカ合衆国における連邦移民政策の形成過程と契約労働者

研究課題名（英文）Foreign Contract Workers and the Formation of Federal Immigration Policy in the United States

研究代表者

廣田 秀孝（Hirota, Hidetaka）

早稲田大学・高等研究所・その他（招聘研究員）

研究者番号：20834021

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末から20世紀初頭の米国における連邦移民政策の発達過程を考察するものである。特に、契約労働者と呼ばれた、あらかじめ渡航以前に米国の雇用者と労働契約を結んだ上で移民した外国人労働者に対して米国政府が実施した移民制限を分析した。その結果、輸入された労働力とそれに対する反発が、20世紀転換期の米国における移民政策の発展に決定的な影響を与えたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

米国においてなぜ移民労働者が批判されるのか？人種やジェンダーはどのように移民労働者への批判と関わっているのか？今日、米国の移民官は外国人の入国や強制退去に対して絶大な権力を有しているが、その権力はどのように発展してきたのか？現代の米国における移民問題を考える上で、これらの問いは中心的な意味をもっている。本研究は、これらの問いに対して20世紀転換期の移民労働者をめぐる論争がもつ意義を示すことで、我々の米国における移民政策の歴史的な理解を深めるものである。

研究成果の概要（英文）：This project examined the development of federal immigration policy in the United States from the late nineteenth century to the early twentieth century. In particular, it explored the federal government's policy for restricting the immigration of foreign contract workers, who immigrated to the United States under prearranged labor contract with US employers. The project revealed that imported labor and oppositions to it played a decisive impact on the course of US immigration policy at the turn of the twentieth century.

研究分野：歴史学

キーワード：米国史

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、それまで主に移民の米国社会への同化等に注目してきた米国移民史研究において、移民の入国制限や強制送還を含む移民政策の歴史に関心が集まったが、その中で以下の2点が米国移民政策史研究における主要な潮流となった。

- ①中国系移民の入国禁止と強制送還を目的として1880年代から1940年代にかけて実施された、中華排斥法に関する研究。
- ②現代の米国における移民問題の起源となった移民法が通過した1924年以降の移民政策に関する研究。

これらの研究が米国移民政策史研究を牽引する中、連邦移民法の創成期といえる1880年代から1920年代にいたる時期に関して、既存の研究の多くが中華排斥法に着目する一方で、中国系移民に限定した同法よりもはるかに多くの、その他全ての移民に対して同時期に執行された、契約労働者の入国規制を含む一般移民法に着目する研究は限られていた。近年、一般移民法による障害者や貧民の移民制限についての研究が発表されたが、契約労働者に関する研究は未だ試みられていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、連邦移民政策の創成期である19世紀末から20世紀初頭の米国における同政策の発達過程を考察する。同時期に関する従来の研究の多くが、中国系移民の入国制限を目的とした中華排斥法に着目してきたのに対して、本研究は、同政策よりもはるかに多くの、中国系以外の全移民を対象とした一般移民法下で執行された、「契約労働者」と呼ばれた日系、メキシコ系、カナダ系、ヨーロッパ系移民に対する移民規制に光をあてる。

「契約労働者 (contract worker)」とは、自らの経済力で米国に渡り到着後に労働者として雇用を確保した大多数の移民と異なり、渡航以前に米国の雇用者と労働契約を結び、雇用者が渡航費を支払う代わりに、米国到着後その雇用者の下で働くことを約束した移民を指す。米国人や通常の移民に比べて契約労働者は賃金が低く、そのため、産業化と資本主義の発達が進む19世紀末の米国において、産業界の資本家や企業は、海外から契約労働者を積極的に雇い入れた。他方、契約労働者の参入により賃金の低下や失職を恐れた米国人労働者が連邦政府に圧力をかけたことで、同政府は1885年に契約労働者の入国を禁止し、雇用者を処罰する法律を制定した。これらの規制はその後、貧民や伝染病患者など望ましくないと判断された外国人の入国を禁止した一般移民法に組み込まれる。本研究は、19世紀末から20世紀初頭にかけて米国連邦政府が契約労働者に対して実施した移民制限の分析を通じて、輸入された労働力とそれに対する反発が連邦移民政策の発展に与えた影響を考察するものである。

本研究は、契約労働者への排斥感情が米国連邦移民政策の形成に与えた影響を実証し、同政策の発達過程を再考することを目的とする。具体的には、以下三点にしばって考察する。

それまでは中国系移民やヨーロッパからの貧困移民の主な到着先であった沿岸部諸州において積極的に推進されていた移民制限が、契約労働者に対する排斥感情によって、国境地帯及び内陸部の州においても提唱されていく過程、すなわち移民制限が国家的政策として確立されていく過程

中国系以外の全ての外国人に適応されるはずの一般移民法下での契約労働者の入国規制

が、移民官の個人的偏見により、事実上日本人等の非ヨーロッパ系移民を排除する目的で実施されていく過程、それを通して連邦移民政策において人種差別的性質が発達していく過程

非合法的に契約労働者を米国に入国させる国際的密入国ルートが発達の結果、20世紀初頭以降の米国移民政策の中核をなした査証（ビザ）システムが導入されていく過程

3．研究の方法

本研究は、法律史、政策史、社会史、トランスナショナル・ヒストリーを統合した総合的な観点に基づく研究方法を導入する。具体的な着目点として、以下の三点があげられる。

先行研究の多くは、例えば米国南西部の米墨国境地帯や中国系移民に着目するなど、分析対象の地域や民族集団に関して限定的であったが、本研究は、沿岸部、国境地帯、内陸部を含む米国本土全体を対象地域とし、さらにアジア、メキシコ、カナダ、ヨーロッパ系移民を含む多様な移民集団に対する法執行を分析することで、俯瞰的に移民法政策を考察する。

社会科学を中心に展開してきた従来の米国移民政策研究の多くは、移民政策の制度的側面や移民法の理論的側面に着目してきた。これに対し本研究は社会史の視座を導入し、港、国境、国内雇用先等における移民法執行状況の詳細な分析を行い、移民制限の法制度的側面と法執行の社会的現実の両面を考察する。

先行研究は移民政策の国内的展開を主な対象としてきた。これに対し本研究は非合法的手段を含む本国からの移民過程や状況が、契約労働者に対する移民法執行に与えた影響を考察することで、トランスナショナル・ヒストリーの視点から米国移民政策の展開を考察する。

4．研究成果

研究期間の大半において、コロナ禍によって海外渡航が大幅に制限されていたため、当初予定していたよりも多くの時間を広島公文書館や国立国会図書館をはじめとした国内機関での資料調査に費やした。最終年度になって初めて米国への渡航が可能になり、カリフォルニア州で調査を実施した。コロナ禍により、米国での資料調査が当初予定していたよりもはるかに小規模なものになってしまい、その結果、研究期間内に研究成果を出版物としてまとめることが困難となった。その一方で、研究期間中コンスタントに海外の大学から研究報告の招待をいただき成果報告を行なったことは、今後本研究を昇華させる上で重要な助けとなったと言える。また、これらの研究報告を通して、国際的な研究者ネットワークを構築し、拡大できたことも、今後の研究の糧になったと言える。研究成果の出版については、最終的に単著として出版することを目指して、研究期間中にオックスフォード出版局の編集者と定期的に打ち合わせを重ねた。研究期間終了後1年以内に、単著の原稿をオックスフォード出版局に提出する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Hidetaka Hirota	4. 巻 Unknown
2. 論文標題 Introduction: Pacific Connections in the Civil War Era	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Civil War Era	6. 最初と最後の頁 2023年12月出版予定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 Peggy O'Brien Book Prize Panel: Expelling the Poor
3. 学会等名 Annual Conference of the Irish Association for American Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 Immigration Policy in the Gilded Age
3. 学会等名 Symposium Webinar on the Gilded Age, United States Capitol Historical Society（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 History Section Roundtable: The Practice and Politics of Historical Analogy
3. 学会等名 Annual Conference of the Association for Asian American Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “ The American Dilemma”: Foreign Contract Labor and the Making of US Immigration Policy
3. 学会等名 19th Century Research Cluster Seminar, The University of Hong Kong (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 Japanese Immigrants, Trachoma, and US Border Control
3. 学会等名 Legal Histories of Disease Conference, Center for Law and History, Stanford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “ The Origins of the ‘ Illegal Alien ’ in the United States: The Impact of Irish, Japanese, and Mexican Immigration”
3. 学会等名 Annual Dalsimer Lecture, Boston College (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “ ‘ Slavery worse than existed in the sunny South ’ : The Problem of Japanese Labor in Progressive America, ”
3. 学会等名 Friends of History Lecture, Portland State University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “Historical Connections between Canada and American Immigration Policy”
3. 学会等名 Canadian Studies Program, University of California, Berkeley (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “The Transnational Business, Racial Politics, and Diplomacy of Japanese Border Crossing in North America”
3. 学会等名 Annual Lecture Series, Centre for Diaspora and Transnational Studies, University of Toronto (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “The Influence of the Alien Contract Labor Law on the Development of U.S. Immigration Policy”
3. 学会等名 CSLS Speaker Series, Center for the Study of Law and Society, University of California, Berkeley (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “The American Dilemma: The Problem of Foreign Labor in the History of U.S. Immigration Law”
3. 学会等名 Aoki/History-People of Color Seminar Series, University of California Davis School of Law (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidetaka Hirota
2. 発表標題 “ A New History of American Immigration Policy ”
3. 学会等名 Berkeley Interdisciplinary Migration Initiative, University of California Berkeley (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------